

会 議 録

- 議事内容 2025年度 4月定例教育委員会
- 日 時 令和7年4月16日（水）13：30～16：30
- 場 所 4階会議室4-1
- 出席者 教 育 長 小西 博泰
教 育 委 員 藤本真理・石原友紀・酒井秀彦・加納昌樹
事 務 局 入江教育管理部長・藤井教育指導部長
松田教育総務課長・市橋いきいき社会創造課長
福西スポーツ振興課長・菅野スポーツ振興課主幹
教育総務課 小畑

■〔会議の内容〕

1 開会あいさつ

- ・教 育 長
- ・福西事務局 新任あいさつ

2 前回議事録確認

■【教育委員からの照会及び意見】

Q：4ページの下から7行目の「保護者の人数の増加に繋がっている」という文の「保護者」を、前文の「祖父母の参加できる行事が減っている」を受ける形で、「保護者や祖父母」に変更した方がよい。（教育委員）

A：「保護者や祖父母の人数の増加に繋がっている」に変更する。（教育長）

（全委員一致で承認）

3 報告事項

- ・令和7年度主要事業の進捗状況の説明及び教育委員からの意見聴取

■〔学校教育課関連〕

①「夢と希望の教育」の充実と深化【教育課程管理】

（進捗状況）

- ・5月29日、教育行政顧問の川島隆太教授を訪問し、面談する予定である。
- ・4月2日、校園長会を開催し、令和7年度の重点課題を共有した。
- ・GIGAスクールプロジェクトに係る児童生徒及び教師のGoogleアカウントの更新が完了し、一人一台の端末を使用した全国学力・学習状況調査についても滞りなく実施できた。
- ・新幼稚園の新たな魅力づくりの取組として、デザインスタジオ（来住地区）と協働し、新幼稚園の園目標を掲げるバナーのデザインを子どもたちと一緒に

に作る過程を収めた「DRAWING BOOK（ドローイング・ブック）」を作成し、活用している。

- ・各校区において、コミュニティスクールの取組がスタートしている。

（重点課題）

- (1) 脳科学：「スマホと教育（家庭学習含む）」「自立した情報の使い手に」
- (2) 学力向上：協働的な学びをベースとした個別最適な学びの実現
- (3) 不登校：教育サポートセンター・校内サポートルームのさらなる活用、不登校“ゼロ”を目指す
- (4) 幼稚園教育「新たな魅力づくり」：幼小連携他
- (5) 小中一貫：人口減少を見据えた小中一貫教育のあり方について
- (6) 新たな教育課程：教科担任制、チーム担任制

②「チーム学校」を踏まえた学校組織マネジメントの強化とリスクマネジメント【危機管理】

（進捗状況）

- ・校務支援システムの年度更新が完了した。
- ・就学援助事務をスタートする予定である。
- ・不登校対策の充実として、教育サポートセンター・校内サポートルームの内容の改革や取組の見直しを行っている。

（重点課題）

- (7) 不登校対策の情報共有、DV事案及び虐待事案に対する関係機関との連携対応の一層の推進

③人材育成と働き方改革【人的管理】

（進捗状況）

- ・人事異動に伴い新たな体制がスタートし、新体制のもと、学校運営を進めている。

（重点課題）

- (8) キャリアステージに合わせた人材育成とリーダー育成
- (9) 学校の組織力の向上（危機管理能力と組織的対応の向上）
- (10) 多様な働き方を見据えた働き方改革の推進（勤務時間の管理）

④学校教育課情報

1 市の取組

○4月 1日（火） 市教職員辞令交付式

- ・採用校長、昇任校長、採用教頭、昇任教頭、新任教職員、転任教職員のみで実施
- ・その他の辞令交付は、学校長が行う
- ・激励及び歓迎の言葉を、教育長より伝える

2 学校の取組

○入学式 ※来賓なしで実施。教育委員会は職員席側で参加

○授業参観等

- ・4月12日（土） 小野中 学習参観（PTA総会）
- ・4月19日（土） 小野南中・旭丘中・河合小中 学習参観（PTA総会）
- ・4月17日（木） 全国学力・学習状況調査
- ・4月26日（土） 小学校（河合小を除く） 学習参観（PTA総会）

○家庭訪問

- ・小学校 4月中旬から実施
- ・中学校 4月下旬から実施

○遠足等

- ・5月1日（木）、2日（金） 小学校で実施
- ※小野中・小野小・小野東小（小中交流遠足）

○運動会

- ・5月17日（土） 特別支援学校
- ・5月24日（土） 小学校、河合小中

○中学校修学旅行

- ・5月19日（月）～21日（水） 旭丘中（沖縄方面）
- ・5月20日（火）～22日（木） 小野中、小野南中（沖縄方面）

3 その他

○学校教育課人事異動

- ・学校教育課主幹（学校教育担当）田中雅樹 → 来住小学校 教頭
- ・来住小学校 洞井孝一教頭 → 学校教育課主幹（学校教育担当）

■【説明事項に対する教育委員からの照会及び意見】

Q：入学式に参加された感想や意見を聞かせていただきたい。（教育長）

A：大部小学校の入学式に参加した。式典自体は30分程度で終了したが、式典内容

が簡素だったというわけではなく、式辞がスムーズに進み、短い時間で終了したという印象である。式典では、新入生の名前を一人ずつ呼び、新入生は元気な声で返事をして起立していて、微笑ましかった。(教育委員)

A：中番小学校の入学式では、新入生が9名という少人数だったこともあり、手厚い式典であった。新入生の名前を一人ずつ呼び、前に出てきて校長先生と握手をし、校長先生と2人で写真を撮るという形式であった。式典では、校長先生とPTA会長のあいさつもあったが、30分程度で終了した。(教育長)

A：来住小学校の入学式も、新入生が少なく16名であった。新入生は、背が低いため、階段が用意されており、校長先生と一緒に写真を撮るタイミングもあった。地域の学校の特長として、これが伝統であるのであれば、良い伝統だと感動した。(教育委員)

A：小野東小学校の入学式も、他校と同様に、新入生の名前を一人ずつ呼び、新入生は明るく元気な声で返事をして起立していた。新入生の人数が多いため、個別の写真撮影等の対応はなかった。校長先生が、赤・白・黄色の3本のチューリップを前に置かれて、「赤：明るい声でお返事してください、白：白いノートにいっぱい書いてください、黄：車に気をつけてください」と色に例えて注意喚起しておられ、微笑ましい気持ちで聞いていた。式典の時間は40分程度であった。(教育委員)

A：市場小学校の入学式は、20分程度であった。学校評議員であった時に出席した小野小学校の式典と比べると、ステージを使用しないという点が、以前と違っていた。式典では、一人ずつ新入生の名前を呼び、新入生は返事をして起立した後、座るという形式であった。在校生(児童会長)のあいさつは、「こんな楽しいことがあるよ」と新入生に教える内容のものであった。校長先生のあいさつでは、校長先生がアンパンマンの歌を歌われていた。アンパンマンの歌の歌詞は、非常に意味が深い。その歌を使って、新入生の興味を引く印象的なあいさつであった。(教育委員)

※：市場小学校の入学式で、ステージを使用しなかったという点については、平成の時代に、ステージを使用しない対面式の式典が全国で流行ったことがあり、その形式かと思われる。(教育長)

A：式典の時間を短縮するため、新入生の名前を呼ばない学校もあった。厳粛な式典や学校行事の大切さを教えていくためには、簡素化し過ぎるのもどうかと考えている。今後、コミュニティスクールが導入されたこともあり、学校運営協議会委員の式典への参加を求めるかどうか等と同時に式典のあり方も検討していく。(教育長)

■〔教育総務課関連〕

①おの幼稚園整備事業

(進捗状況)

- ・新幼稚園整備工事の進捗率は、12.45%で工程どおり進んでいる。仮囲いの設置、遊具の仮移設、柱状改良、体育館下ピロティ駐車場の工事を行っている。
- ・4月より、週5回の完全給食が始まっている。

(今後の予定)

- ・短歌フォーラム選考委員の永田和宏先生に協力いただき、園歌の制作を進めていく予定である。

(課題)

- ・魅力・特色のある幼稚園に向けた取組、開園に向けたPR

②学校施設長寿命化対策事業

●旭丘中学校

(今後の予定)

- ・体育館建替工事の公告を5月、入札及び仮契約を6月上旬、議案上程を6月下旬に予定している。
- ・建設工事については、業者決定後、8月から着手し、令和8年10月までかかる予定である。

●河合中学校

(今後の予定)

- ・校舎長寿命化工事設計業務の入札を4月に行う予定である。
- ・業者決定後、5月から基本設計・実施設計に着手する予定である。

(課題)

- ・コミセンとの複合化を見据えた共有スペースの配置、レイアウトの検討
- ・電源設備・受水槽の嵩上げ等の浸水対策

③学校施設バリアフリー化整備事業

(今後の予定)

- ・市場小エレベーター設置工事の入札を4月に行う予定である。
- ・大部小学校については、エレベーターの設置設計の前に、建物の耐力度調査が必要なため、耐力度調査の入札を4月に行う予定である。

④学校体育館空調設備整備事業

(進捗状況)

- ・学校体育館空調整備工事設計・工事監理業務委託(その1)の進捗率は33.

2%で、中学校3校（小野中・河合中・小野南中）の設計は3月に完了している。小学校3校（市場小・来住小・河合小）については、4月7日に現地調査を行ったところである。

- ・学校体育館空調整備工事設計・工事監理業務委託（その2）

令和7年3月14日入札落札 13,420,000円

有限会社ゼン建築設計 令和7年3月17日～令和8年3月25日

→3月18日打合せ、4月3日現地調査（小野小、大部小、小野特）

進捗率：8.3%

（今後の予定）

- ・設計業務（その1）の中学校3校（小野中・河合中・小野南中）については、工事の入札を4月に行う予定である。小学校3校（市場小・来住小・河合小）の工事については、8月に発注する予定である。
- ・設計業務（その2）については、6月と9月を区切りとして設計を進め、工事発注を8月と11月に行う予定である。

（課題）

- ・学校生活に影響の少ない工期の設定（夏休み・冬休みの活用）、工事受注業者の確保
- ・空調機器の全国的な供給不足に対する早期発注及び在庫確保

⑤教育総務課情報

1 学校施設工事等関係

○小野小学校・小野中学校空調更新工事

○小野東小学校空調更新工事設計業務

→学校の空調は、平成23年度に一斉に整備され、13年が経過し、故障等の不具合が多く、部品の生産も終了しているため修理できない状態であることから、順次更新を行う

令和6年度 河合小学校、市場小学校 工事完了

令和7年度 小野小学校、小野中学校 工事

令和8年度 小野東小学校 工事

○特別支援学校プールろ過機更新・市場小学校ろ材交換工事

令和6年11月27日入札落札 9,768,000円

三輪設備 令和6年12月2日～令和7年4月30日

→工事期間 3月下旬～4月末

○学校照明LED化事業（設計：来住小学校、下東条小学校）

→蛍光灯の製造・輸出入が禁止される2027年末までに、校舎・体育館の照明のLED化を完了させ、学習環境の向上（明るさアップ）と省エネを実現する。

○インターホン設置工事

→児童生徒のアナフィラキシーショック発生時や不審者侵入時などの緊急事態に備え、教室から職員室へ迅速に連絡が取れるよう、教室へのインターホン未設置校に対し、インターホンを整備する。

＜対象校＞小野小、河合小、市場小、大部小、中番小、下東条小、小野中

※夏休みを利用して、工事を完了させる予定

■【説明事項に対する教育委員からの照会及び意見】

Q：アナフィラキシーショック発生時や不審者侵入時などの緊急事態に備えて、インターホン設置工事を行うとのことだが、アナフィラキシーショックの発生頻度は高いのか。（教育委員）

A：アナフィラキシーショックに対する緊急補助治療に使用される注射薬のエピペンを所持している児童生徒が、小中学校あわせて20人程度おり、年1回程度、アナフィラキシーショックは発生している。（事務局）

A：学校では、年1回、年度当初にアナフィラキシーショックに対する研修を行っている。研修では、教員が躊躇（ちゅうちょ）なくエピペンを打つ訓練をし、救急車と連携するところまで行っている。（事務局）

Q：先日、中学校の授業参観を見学した際、教室に入りきれなかった保護者が、廊下にあふれ、雑談している光景を目にした。教室に入ることができれば、雑談したいと考えている。例えば、学校の長寿命化工事において、設計の段階で教室を広くすることはできるのか。（教育委員）

A：教室の壁は、耐力壁となっており、構造上、壁を抜くことはできない。そのため、教室を広くすることは難しい。（事務局）

Q：旭丘中学校の体育館建替工事が開始されると、学校行事や朝礼等はどのように行うのか。小野南中学校の場合は、どのようにされていたのか。（教育委員）

A：小野南中学校では、朝礼等を中庭で開催した。卒業式は、エクラを利用した。部活動等は、小学校の運動場や体育館を借りて対応していた。（事務局）

A：旭丘中学校においても、中庭を舗装整備したため、朝礼台を置くことによって、集会はできるようになっている。卒業式や入学式においては、エクラを利用する予定である。体育のある日に雨が降った場合は、教室で保健の授業を進めていく予定にしている。（教育長）

Q：奈良県の学校のグラウンドにおいて、部活動中に落雷があり、生徒が病院に搬送された事故のニュースを見て、こういった事故はマニュアルだけでは防ぐことはできないと実感している。また、マニュアルどおり、雷注意報で都度中止していると、授業にならないし、部活動もできない。このような事故は、稀なケースではあるが、ゼロにならないため、個人的には、運動場にも避雷針を建てるのはどうかと考えている。さらに、他にどのような対策があるのかを調査する必要もある。（教育委員）

A：確かに校舎には避雷針は立っているが、運動場にはない。（事務局）

A：大気が不安定で、暖かい空気と冷たい空気が交わる時に雷注意報が発令される。雷に関しては、注意報はあるが警報はない。そのため、雷注意報が発令された場合は、たとえ注意報であっても警戒してもらう必要がある。（事務局）

A：登下校の際、こんな時はどうする等といったマニュアルはあり、子どもたちにも周知している。雷だけでなく、竜巻の場合も危険であり、何が起きてもおかしくない異常気象も起きている。防災教育の一環として、子どもたちに更なる知識やスキルをレクチャーすることも課題の一つである。（教育長）

■【いきいき社会創造課関連】

①いきいき社会創造課情報

○小野市文化連盟総会

日 時：4月19日（土）14時00分～

場 所：うるおい交流館エクラ 大会議室B

○小野市詩歌文学賞、小野市短歌フォーラム

日 時：4月26日（土）12時30分～16時10分

場 所：うるおい交流館エクラ エクラホール

<プログラム>

第1部 講演・対談

テーマ：季語の力

登壇者：高野 ムツオ、小島 ゆかり

第2部 小野市詩歌文学賞授賞式

第3部 小野市短歌フォーラム表彰式

第4部 小野市短歌フォーラム入選歌の選評

<懇親会>

時 間：16時25分～17時20分

会 場：うるおい交流館エクラ 市民交流ホール

○「教科書で出会ったあの名作」展示（図書館）

期 間：4月23日（水）～5月26日（月）

内 容：国語教科書の教材として使われた作品を集めてカウンター前に展示する

○企画展「歌人・上田三四二ー生涯と業績ー」

期 間：4月19日（土）～5月18日（日）

内 容：小野市詩歌文学賞・短歌フォーラムの開催に合わせ、小野市出身の歌人で文学者の上田三四二の業績を紹介する

○第15回かわいの大運動会（コミセンかわい）

日 時：5月3日（土・祝）8時30分～12時40分

場 所：河合運動広場

②行事一覧 ※既に終了した事業を含む（別紙詳細）

■【説明事項に対する教育委員からの照会及び意見】

Q：コミセンかわいは、運動会を毎年開催しているが、どこが主催しているのか。
（教育委員）

A：河合地区の地域づくり協議会が主催である。会場の河合運動広場付近で、駐車場の確保ができるため、毎年開催できている。コロナ禍以前は、コミセン下東条でも、運動会を毎年開催していたが、駐車場の確保が難しいため、現在は休止している。（事務局）

■【スポーツ振興課関連】

①学校保健体育事業の推進

（進捗状況）

- ・今年度も「短なわとび検定」を実施する予定である。4月8日、「短なわとび」「なわとび解説書」を小学1年生全員に配布している。
- ・昨年度実施した、5年生と8年生対象の全国体力運動能力テストの結果を、県・全国平均と比較し分析を行っている。

＜特長＞

- ・中学生男女とも、持久走については、県・全国平均を上回っている。
 - ・中学生女子は、8種目中6種目で、県・全国平均を上回っている。
 - ・小学生女子は、8種目中4種目で、県・全国平均を上回っている。
 - ・小学生男子は、8種目中6種目で、県・全国平均を下回っている。
- 体が大きくなる過程を見据え、いかに目標を設定するのが課題である。

②第12回小野ハーフマラソン2025

（進捗状況）

- ・第11回小野ハーフマラソン2024が、ランナーズの「全国ランニング大会100撰」に選ばれ、2023年に引続き、2年連続で選出されている。
- ・5月1日、ホームページ上でプレ告知を行う予定である。(開催日時のみ)
大会名：Ring of Red 第12回大会小野ハーフマラソン2025
開催日時：12月7日(日) 9時30分スタート予定

(今後の予定)

- ・5月21日、第1回実行委員会を開催する予定である。
- ・エントリー期間を5月29日(木)から9月19日(金)とし、ランナーを募集する予定である。

(課題)

- ・第11回大会での課題を踏まえたマニュアルの刷新

【主な課題】

- ・スタート地点への選手の誘導とトイレの列が重なっていた。
- ・完走証の受付が混雑した。
- ・給水地点での給水場とゴミ箱の距離が近すぎる。

③スポーツ振興課情報

1 学校保健体育

○教科担当者会

日時：小学校 4月10日(木) 時間は未定
中学校 4月11日(金) 時間は未定
場所：リモート開催
内容：組織、年間計画、役割分担等について

○養護担当者会

日時：4月10日(木) 14時00分
場所：市役所4階 4-1会議室
内容：組織、年間計画、役割分担等について

2 社会体育

○第1回小野市スポーツ協会理事会

日時：4月23日(水) 19時00分
場所：市役所2階 2-1・2-2会議室
内容：(1)令和6年度事業報告・決算報告について
(2)令和7年度役員変更について
(3)令和7年度事業計画・予算について

第73回兵庫リレーカーニバル

日 時：4月19日（土）、20日（日）

場 所：神戸ユニバー記念陸上競技場

3 今後の予定

○市内小学校運動会

日 時：5月24日（土） 予備日：5月25日（日）

※河合小・中合同開催

※特別支援学校運動会 5月17日（土） 予備日：5月18日（日）

○第12回小野ハーフマラソン2025

開催日程：12月7日（日）

開催会場：うるおい交流館エクラ、大池総合公園、小野市役所周辺

開催内容：ハーフ、5km、1.5km

※詳細は、5月21日開催予定の第1回実行委員会で決定

■【説明事項に対する教育委員からの照会及び意見】

Q：ハーフマラソンの「給水場とゴミ箱の距離が近すぎる」という課題について、他のマラソン大会等で参考になる例はないか。（教育委員）

A：ゴミ箱が2箇所以上ある大会もある。1箇所目で捨てることができなくても、次の箇所で捨てることできる。（事務局）

A：ゴミ箱が近いとドリンクを飲み切れないという点で、ゴミ箱の位置の問題だけでなく、スポーツドリンクをこぼした後の臭いについても問題である。（事務局）

※：確かに、スポーツドリンクは、サッカー場においても、芝の所に置かないよう厳しく言われるため、土や草花にとっては、あまり良いものではないという認識はある。（教育委員）

A：ゴミ箱を2箇所以上にすると、配置する人員の問題も出てくる。どれくらいの距離が一番適切なのかということは、非常に難しい問題であるが、検討を重ね、対応する必要がある。（教育長）

Q：全国体力運動能力テストについて、具体的にはどの項目が優れているのか。（教育委員）

A：中学生の男女と小学生の女子は、持久走と50m走が優れている。小学生の男子は、反復横跳びと立ち幅跳びについては、県もしくは全国平均を上回っている。しかし、握力・上体起こし・長座体前屈・持久走・50m走・ソフトボール投げについては、県及び全国平均を下回っている。まだ、分析途中であるため、全国平均の推移等も見極めていかないと、上回っているから良いとは一概には言えない。また、今回対象の小学5年生男子が、3年後の8年生になった時に、どの

ように変わっているのかについても、着目していかなければならないと考えている。(事務局)

4 議案

議案第6号 小野市電子図書館管理運営要綱の制定について（いきいき社会創造課）

小野市立図書館が収集した電子資料を提供するサービスの管理運営に関し、必要な事項を定めるため、小野市電子図書館管理運営要綱を制定する。(別紙詳細)

■【教育委員からの照会及び意見】

Q：一回に貸出できる電子書籍の数量も決まっているのか。(教育委員)

A：現在は、3点以内と決まっている。(事務局)

Q：「電子資料を複製してはならない」とのことであるが、スクリーンショットについてはどうか。また、スクリーンショットしたものをSNSに挙げる行為は、違法であるという認識でよいか。(教育委員)

A：家庭内や個人的な範囲での利用であれば、問題はない。しかし、スクリーンショットしたものをSNSに挙げる行為は、違法である。基本的には、著作権法に定める例外を除き、複製してはいけない。(事務局)

(議案第6号において、全委員一致で承認)

5 協議事項

○令和6年度事業評価（修正）について（各課） ※別紙詳細

前回の協議内容を反映し、再度協議を行う。

■【教育委員からの照会及び意見】

Q：スポーツ振興課のハートフルウォーキング事業の評価欄に「高齢者のフレイル予防の観点からも」とあるが、フレイルの意味がわかりにくいため、簡単な説明を追記した方がよい。(教育委員)

A：フレイルの後ろに括弧書きで注釈を追記する。(教育長)

A：その後ろに続く「市民の健康づくりを堅実に進めていただきたい」という文章が不自然なため、「市民の健康づくりに寄与する取組を進めていただきたい」に変更する。(事務局)

○部活動の地域移行の経緯と部活動の地域展開について（事務局）（スポーツ振興課）※プレゼンテーション資料参照

部活動の地域移行の経緯

①部活動とは何者なのか

●部活動の位置づけ

部活動は、学習指導要領上、教育課程外の自主的な活動でありながら、学校教育活動の一環に位置づけられており、矛盾が生じている。

●部活動の変遷

時 期	社会背景と部活動	内 容
1980年代 ～1990年頃	非行防止手段としての部活動	校内暴力や非行が社会問題化し、生徒のエネルギー発散の場として見直された
1990年代 ～2000年頃	学校週5日制導入と部活動	子どもたちに「ゆとりのある自由な時間を」という理念下で、“部活漬け見直し”を求める声が高まる
2010年代～	体罰事件、働き方改革と部活動	体罰事件を契機に、一転して「部活動のあり方」が問題視された

②部活動の地域移行とは

●部活動地域移行の背景

- ・部活動の指導教員の長時間労働が問題化し、教員離れが加速
- ・少子化でチーム編成が困難化する学校が増加
- ・2019年臨時国会にて、部活動を学校以外の主体（地域）が担うことへの検討が附帯決議

③地域移行案の課題

(1) 地域性の差異

都市部：受け皿となるスポーツクラブ単体で自立した運営が可能

地方都市：事実上小規模な活動内容のため、スポーツクラブに全てを委ねることは実行力的に困難

(2) 担い手の課題

- ・事業参入に関する商圈的視点では、都市部と地方都市の差が顕著に現れる
- ・指導者においても、都市部と地方都市の差が顕著に現れる
→地方都市：委託先の選定に苦慮、国が推奨する各団体の公的指導資格取得者は少ない

(3) 成果と報酬の課題

「教職員給与特別措置法」（公立学校教員の給与体系を定めた法律）

- ・基本給の4%分を一律で上乗せする代わりに時間外手当を支給しない
- ・学校長が命令できる時間外労働については、4項目（実習業務、学校行事、職員会議、非常災害等）の業務のみ
- 4項目に部活動指導が含まれず、自発的な活動とみなされる
- 部活動を担当するしないに関わらず、給料が同じ（構造的課題）

(4) 費用負担の課題

- ・指導者への報酬をどのように設定するのか
- ・経済的困窮家庭への負担軽減はどうするのか
- ・会費徴収は誰がどのように行うのか
- ・滞納が生じた場合、誰が処理するのか
- ・保護者に負担を求めるのか、適正額はいくらなのか

小野市流の部活動地域展開

① 部活動の見直し

時 期	国の動向 (文部科学省、スポーツ庁、文化庁)	主な内容
令和2年9月	学校の働き方改革をふまえた部活動改革	・休日部活動の段階的地域移行 ・学校・地域が協働・融合した部活動 ・学校の働き方改革も考慮
令和4年12月	学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方に関する総合的なガイドライン	・学校部活動と新たな地域クラブ活動の在り方 ・学校部活動の地域連携や地域クラブ活動への移行に向けた環境整備 ・大会等の在り方の見直し
令和5年度～令和7年度	中学校部活動の休日地域移行に関する「改革推進期間」を上記ガイドライン上に位置づけ	・「改革推進期間」（令和5～7年度）を位置づけ ・各都道府県及び市区町村における推進計画の策定等により、休日の学校部活動の段階的地域連携 ・地域移行の促進
令和6年12月	学校部活動及び新たな地域クラブ活動の	・学校部活動と新たな地域クラブ活動の在り方

	在り方に関する総合的なガイドライン	・学校部活動の地域連携や地域クラブ活動への移行に向けた環境整備 ・大会等の在り方の見直し
令和８年度 ～令和１３年度	平日の地域クラブ化も推進する「改革実行期間」を上記ガイドライン上に位置づけ	・「改革実行期間」（前期：令和８～１０年度→中間評価→後期：令和１１～１３年度）を位置づけ ※これから改革に取り組む地方公共団体においても、前期で地域展開（困難な場合は地域連携）に着手

② 小野市の部活動の現状・あり方の検討

部活動地域移行のあり方検討委員会

市スポーツ協会、市中体連会、中学校長会、連合ＰＴＡ、スポーツ少年団

スポーツクラブ、吹奏楽団 等 計１７名

→検討委員会を６回開催（令和５～６年度）

＜検討内容＞

- ・小野市の現状調査（アンケート調査）
- ・教員の負担軽減
- ・部活動の意義を再確認

●現状

- ・現在の部活動種目（１０種目）

野球、柔道、卓球、ソフトテニス、陸上競技、サッカー、バレーボール、バスケットボール、ソフトボール、吹奏楽

- ・小野市生徒数（中学生）の推移

令和５年度 １，３７８人→令和１３年度 １，１１８人

●令和６年度アンケート結果

対 象	質 問	回 答	主な声
生徒	部活動（地域クラブ）に期待すること	仲間づくり・スポーツを楽しむ 体力・技術の向上	・学校の先生の方がやりやすいから、地域移行しないでほしい。 ・知らない指導者は不安
	地域移行後も部活動に参加したいか	参加したい（３５％） 参加したくない（１４％） わからない（４８％）	

			・専門的な指導が受けられるから強くなれる
保護者	部活動（地域クラブ）に求めること	努力することの大切さ 活動を楽しむこと	・教員に関わってほしい
	地域クラブに期待すること	専門的な指導 希望種目の継続	・人格者に指導してほしい
	費用負担について	月額３０００円以下（８２％）	・家庭の事情で、活動が制限されないよう配慮してほしい
	送迎について	校区内のみ送迎（３３％） 送迎ありなら不参加（１１％） →送迎が難しい（４４％）	・平日送迎ありの活動は厳しい
教員	専門的な指導	指導できない（３４％） 専門ではないが指導できる（２４％） →専門外（希望していない）種目の顧問（５８％）	・専門的指導ができない ・部費等のお金の管理が負担 ・交通費、宿泊費等経済的な負担
	部活動が負担	負担に感じる（８１％）	・休日の手当が少ない
市内スポーツ団体	受入について	受入不可（７０％）	・指導者不足 ・大会引率の人手が足りない ・活動の目的が違う

●協議結果

- (1) 生徒が主役であるべき
生徒の希望＝教員との関わり
- (2) 学校は部活動を手放して本当によいのか
塾とは異なる価値がある部活動をいかにして学校に残すか
- (3) 教員の負担軽減
拠点集約、外部指導員の活用、指導者報酬の確保
- (4) 小野市の地理的特性・スポーツ資源の活用
市内全域からのアクセスが容易な大池総合公園のスポーツ機能（野球・テニス・陸上・卓球・バスケットボール等）



受皿不足の中、いかにして生徒たちの希望を叶えるか

③ 小野市部活動地域展開の推進計画

小野市部活動地域展開推進計画を策定（令和7年2月）

●「拠点校方式」の導入

複数の学校の生徒が、特定の「拠点校」に集まり、合同で活動を行う仕組みである。



この方式により、指導者や練習環境を効率的に活用できるため、生徒は、より充実した指導を受けることができ、教員の負担軽減にもつながる。

●移行時期

令和9年度の総体（コンクール）終了後

- ・令和7年度の新7年生→現在設置されている各中学校の部活動へ入部
- ・令和8年度の新7年生→8年生時の総体終了後より拠点校へ移行

●活動イメージ

月	火	水	木	金	土	日
自主練習 or 活動なし	活動なし	拠点校	自主練習 or 活動なし	自主練習 or 活動なし	拠点校 (拠点会場)	活動なし ※大会は 除く

- (1) 週1～3回、拠点校で活動
- (2) 平日は、移動時間を考慮して、活動場所を指定
- (3) 土日（休日）は、各拠点校（今後検討）で活動
- (4) 移動については、自転車での移動及び保護者の送迎を依頼
- (5) ケガ等については、災害共済給付（日本スポーツ振興センター）で対応
※クラブチームとして活動する場合は、個人負担（保険や月謝）が必要

④ 今後の課題・あるべき姿への挑戦

●地域展開に向けた課題

- (1) 指導者の人材確保及び指導報酬（指導する教員としない教員の待遇差）
- (2) 活動場所への移動（平日移動、安全確保、保護者負担）
- (3) 活動費用（保護者負担、助成制度の検討）
- (4) その他（平日の活動機会確保、クラブチーム募集等）

●目指すべき姿

中学生がスポーツや文化芸術活動に継続して親しむことのできる環境づくり

- ・生徒の多様なニーズに合った活動
- ・地域団体との連携・協働
- ・地域におけるスポーツ・文化芸術活動の確保

■【教育委員からの照会及び意見】

Q：拠点校方式に移行すると、拠点校としての活動場所は、市内全域からアクセスが容易な小野中学校や大池総合公園等に決まってしまうのか。（教育委員）

A：小野中学校や大池総合公園等は、あくまでも、平日の活動場所としての例である。土日等の休日については、それぞれの拠点校での活動を考えている。

ただ、小野中学校や大池総合公園等まで行く時間としては、それぞれの学校から自転車で20分くらいであるが、自宅までの帰りの距離を考えると、活動時間の問題や安全面の問題等、これから考えていかなければならない課題がある。（事務局）

Q：自主練習は先生が見るのか。（教育委員）

A：先生が見ることになる。（事務局）

※：自主練習を見てくれるのは、専門の先生なのか、専門外の先生なのかわからないが、先生が見るということは、先生の負担が現状と変わらないのではないかという心配もある。しかし、アンケートにもあるが、保護者としては、顧問という形でなくても、学校の先生が見てくれるのであれば、安心感が大きい。（教育委員）

Q：神戸市では、地域移行がすでに始まっていると聞いている。（教育委員）

A：神戸市は、平日・休日ともに学校単位での「部活動」を2026年度で終了し、すべて地域のスポーツ団体等を運営主体とする「クラブ活動」に全面移行すると発表している。神戸市は、受皿となる団体等が多いため、地域移行が進んでいる。（事務局）

A：小野市は、地域の団体に受皿がなく、神戸市のように外部団体に全面移行することもできない。また、教員の中にも、部活動の顧問をやりたいという教員もいる。そういった現状で、少しでも生徒の希望を叶える方法を部活動地域移行のあり方検討委員会で協議した結果、「拠点校方式」を導入する方向で進めていくことになった。（教育長）

Q：「拠点校方式」を導入するにあたって、保護者サイドから見た疑問点や課題等があれば、教えていただきたい。（教育長）

A：拠点校への移動については、通学路ではない道路を通ることになる。また、市内で練習試合があった場合も、子どもたちだけで、通学路ではない道路を自転車で移動することになる。そういった場合の安全面について、今とどう変わるのか不安がある。（教育委員）

A：高校の部活動では、市外への現地集合も多く、バス代や電車代も自己負担である。高校生は現地集合が可能なため、交通費の自己負担や現地への送迎についても理由がわかりやすく納得がいく。しかし、中学校の部活動における保護者の負担については、今までの恵まれ過ぎていた。この印象が保護者にあるため、これまでと環境が変わるという説明が必要だと感じる。（教育委員）

A：今までの部活動の恵まれた環境が残っている保護者がいる中で、変化する内容を理解してもらうことは、丁寧な説明が必要になるため、非常に大変な作業だと思うが、一番大切な作業でもあると思う。（教育委員）

※：今後、完全実施までに検討すべき課題も多く残されている。子どもたちや保護者、教員の意見を聞きながら、理解と協力を得られるように取り組む。教育委員のみなさまからもご意見をいただくこととなる。「拠点校方式」導入で賛同願えるか。（教育長）

（全委員からの賛同を得る）

6 その他

○令和7年度定時総会・全県教育委員会研修会

日 時：5月20日（火）12時20分～16時00分

場 所：丹波市丹波の森公苑 セミナー室（丹波市柏原町柏原5600）

7 次回定例教育委員会予定

5月21日（水）13時30分～ 4階会議室4-1

6月17日（火）13時30分～ 4階会議室4-1

8 閉会あいさつ 教育長